

加齢に伴い、縮小していく行動地図

メル友から届いた「退職者の行動図」と題するレポートの次の節が、妙に共感、共鳴したので紹介します。

【 退職者の場合は、地図を書きにくくなっているのです。

最終目的地はいたる所にある青山だとは思いますが、いつ来るか、どこにあるかは、若いときの就職とは違って見えないのです。

目的地までの経路地というかどんな道のりを辿っていいか分かりません。

何らかの特別な資格でも在職中に身に付けられるように、また人間関係の資産づくりを努力してこなかったのが悔やまれます。

仕事で忙しく時間がなかったというのは言い訳で、疲れたなんて言うのは誤魔化しです。

在職中に自分の行く末についてちょっとだけでも考えておけば、充実した日々を過ごせたのかも知れません。

でも、自分の考えだけで自分の生活を定めることはできないのもまた事実です。

退職後は、人づきあいが狭く疎遠になります。

高血圧、緑内障、白内障、体力の低下、そして、記憶力や学習意欲の低下という加齢による病気は、誰彼差別なく確実に進んできます。

宇宙と違って自分のこれからの地図は縮小し、様々なものが消え去っていきます。

この感じは現職のときは他人事でした。

今私にとってそれに抗う一つの方法が、文章を書き続けることと思っています。】

人生という地図では、「誰彼差別なく」最終目的地は同じであると分かっているのに、加齢に伴い、そこに至るには「どんな道のりを辿るのか」は本人自身にも分からない戸惑いと不安…… (?_?)

また、地図上に当面の道筋を見つけたと思っても、加齢に伴う体力、知力の衰えでその道を地図通りに辿れないもどかしさと苛立ち…… ('_')

戸惑、不安、もどかしさ、苛立ち等にうまく付き合う程には、歳を重ねても私はまだまだ修行が足りなさそう…_(^_^)_

私もメル友同様に、加齢に伴い縮小していく地図に「抗う一つの方法」として、HP、ブログ、FB等で厚かましく発信し続けているのかな?? (*^_^*)